

# CN8000A導入ガイド

---

## 目次

---

### CN8000A導入ガイド

#### 目次

【必ずお読みください】 ご注意

当マニュアル内での表現について

製品概念

箱を開けてからの、セットアップの流れ

※本体/モジュールのバージョンの最新化について

※ファームウェアアップグレードの流れ

アップデートの準備

CN8000A本体をアップグレードする

ケーブルの接続

CN8000A単体で利用する

CN8000AとCS1754を組み合わせで利用する

CN8000AとCS1716Aを組み合わせで利用する

CN8000AとCL3800を組み合わせで利用する

CN8000AとCL1000を組み合わせで利用する

電源投入

#### リモートからアクセスする

WinClient / JavaClientの違い

WinClient / JavaClient入手方法

ブラウザ版WinClientを起動させる

exe版WinClientを起動させる

JavaClientの起動方法

#### その他、主に使用される設定について

各アカウントの権限設定について

同時アクセス時の権限設定について

転送速度を制限させて追従性を向上させる方法

ブラウザの自動ログアウト設定を無効にする

ローカルコンソール側でCN8000Aを再起動させる

リモートコンソール側でCN8000Aを再起動させる

#### FAQ

対応するOSを知りたい

ログインできない

サーバーが起動したままでもセットアップして利用できるか?

モニターの解像度が変更できない

再起動を繰り返すようになってしまった

既知の問題・HPE製Gen10サーバーで画面が表示されない問題について

Windows7でWinClientが起動できない

一般回線を使用してリモートアクセスする場合の注意

CN8000AのIPアドレスが分からなくなった

ローカルとリモートバラバラで操作したい

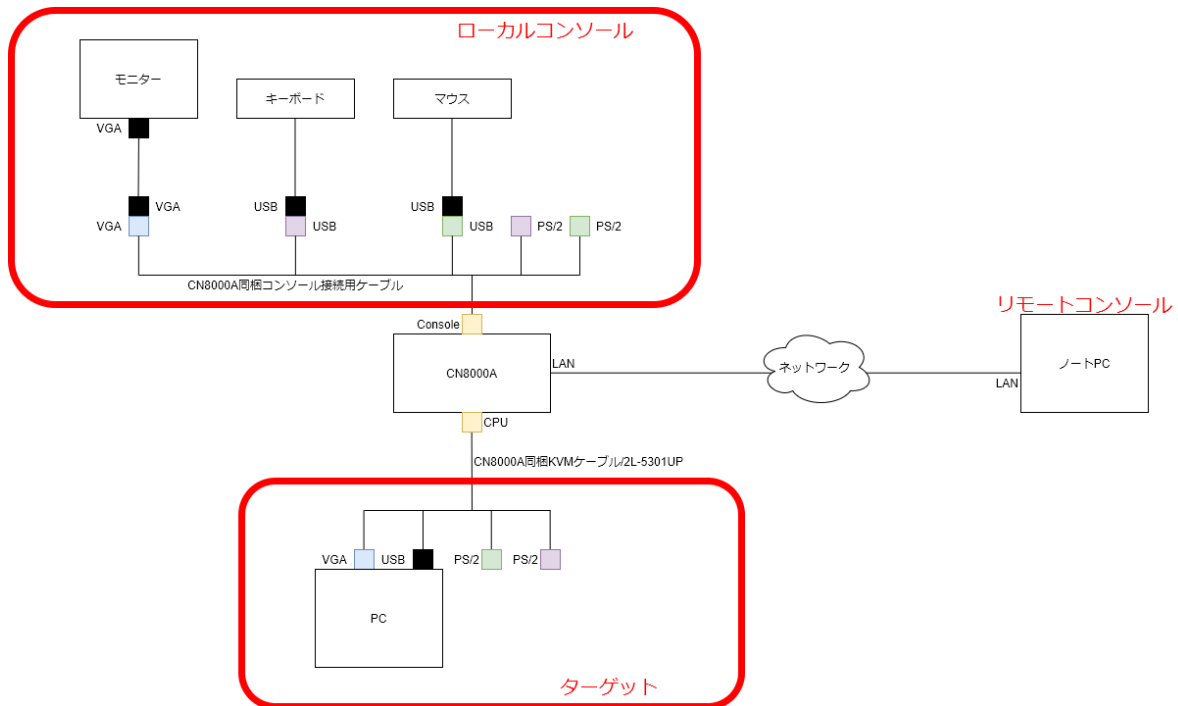
## 【必ずお読みください】 ご注意

---

- 当ガイドは製品マニュアルの補足を目的に作成しており、「開梱から使用開始するまでのセットアップ」のガイドとして作成しています
- 詳細の手順を割愛していますため、手順詳細の確認をされたい場合は、製品マニュアルをご参照ください
- 弊社製のKVM製品やマニュアルは、予告なく仕様変更などが行われます
- 弊社では、製品に対しての技術サポートの提供は最新版のファームウェアでのご利用が前提となります。過去バージョンでは発生している問題・障害に対してはまず最新でのアップグレードを実施してからご確認ください
- 仕様変更によって、最新のハードウェアでは過去のバージョンのファームウェアに書き換えを行えが出来ない、強制的に行った場合に製品が動作不能になるおそれがございます。弊社ではこれら同製品内の過去互換性についてはサポート外となりますため、ご理解頂きますようお願い申し上げます
- ご利用から3年以上経過した製品については、仕様変更に伴い最新のファームウェアはご利用頂けない可能性がございます。この経過した製品への技術サポートの提供は不可となります。この場合に対しては、製品がアップグレードが出来るまでのバージョンへ上げてから、動作確認を行ってください。もし、改善が見られなかった場合は、製品リプレースでの解決による方法をご検討いただきますようお願い申し上げます

# 当マニュアル内での表現について

- 以下を「コンソール」と表現しています
  - 「KVM本体に接続しているモニター」 + 「PCやKVMを操作するためのキーボードやマウスなどの入力デバイス」の総称
- 以下を「ターゲット」と表現しています
  - CN8000AにKVMケーブルで接続しているPC/サーバー
- 以下をまとめて「ローカルコンソール」と表現しています
  - CN8000A本体に接続しているキーボード、VGA接続のモニター、マウスからの操作表示
    - 例・「ローカルコンソールが動作するかご確認ください」 → 「CN8000Aに接続されているモニターはフリーズや乱れた表示にならずに安定して表示ができている、そしてキーボードやマウスは入力しても遅延や入力漏れなく、快適に操作ができるかご確認ください」
- 以下をまとめて「リモートコンソール」と表現しています
  - CN8000A本体にアクセスしている専用アプリケーションとリモートのPC端末の総称



- 以下を「KVMケーブル」と表現しています
  - CN8000AやCS1716Aなど弊社製KVMスイッチとPCを接続するためのケーブル
- 以下の製品はまとめて「コンソールモジュール」と表現しています
  - KA8270
  - KA8278

- KA8280
  - KA8288
- これらの製品は、リモートからLANでCN8000Aにアクセスしてコンピューターモジュールに接続されたサーバー、ワークステーションを閲覧、操作するためのリモートコンソール専用機器です

## 製品概念

---

- CN8000Aは、PCとモニターなどのコンソール側のインターフェイスの間に接続することで、ネットワーク越しにリモートから接続してPCを操作するための製品です
- 同等機能として一般的にWindowsのリモートデスクトップなどがあります。しかしリモートデスクトップでは接続先のPCがOSを起動した後しか操作が出来ず、接続先のPCのBIOS/UEFIの設定が必要なトラブルが発生した場合、現地で動作を確認ケースが発生します。しかし、CN8000Aを利用することでBIOS操作や確認などのメンテナンス作業が出来ることから一定の操作による復旧方法の選択肢が増え、現地へ向かう工数を減らせる可能性が増やせます
- CN8000Aの仕組みは次のようになっています
  - PCのVGA出力からモニターへ出力されている映像信号をキャプチャーして、ネットワーク経由でリモート端末に表示する
    - CN8000Aはモニターの代替装置ではないため、モニターが接続されていないと映像信号を出力しないPCやサーバーを使用した場合、映像信号がCN8000A経由でリモートへ伝送出来ないケースがございます
  - リモートからのキーボード/マウス操作、そしてUSBで接続されたストレージのデータをネットワーク経由でPCへ伝送する
    - CN8000Aで使用されているUSBコネクタはキーボード、マウス、USBストレージ専用のデータを転送するために設計しており、USB接続形式のタッチパネルやプリンターなどの汎用的な機器と接続してもお使い頂けません

# 箱を開けてからの、セットアップの流れ

---

- 以下の流れでの準備を行ってください

1. 本体のバージョンの最新化
2. 設定確認
3. 機器接続
4. 電源投入

## ※本体/モジュールのバージョンの最新化について

- 弊社製のKVM製品は製造時では最新のファームウェアを搭載した状態で出荷されますが、物流などの要因によってお客様のお手元に届く前に、更なる最新版が公開がされているおそれがございます。そのため、実際に構築・利用する前に必ず最新版か確認を行ってから、構築を行ってください

## ※ファームウェアアップグレードの流れ

- CN8000A本体はリモート端末からのアクセス、またはコンソールモジュールからアップグレードが可能となります
- ファームウェアアップグレード用のアプリケーションを弊社の製品ページから最新バージョンをダウンロードします

<https://www.aten.com/jp/ja/products/modelno/CN8000A>

# アップデートの準備

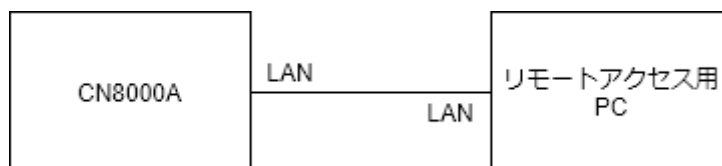
- 本体をPCなどにケーブルの繋ぎ込みを行う前に、CN8000A本体のアップグレードを行います
- 製品ページの「サポートとダウンロード」から最新版のファームウェアをダウンロードしてください

(※以下は2020年4月13日時点のスクリーンショットとなります)

ファームウェア▼

| 説明               | バージョン    | リリース日      | ファイル名                                |
|------------------|----------|------------|--------------------------------------|
| Firmware Upgrade | v1.0.089 | 2019-07-25 | <a href="#">cn8000a_v1.0.089.zip</a> |
| Firmware Upgrade | v1.0.083 | 2018-11-21 | <a href="#">cn8000a_v1.0.083.zip</a> |
| Firmware Upgrade | v1.0.077 | 2018-02-07 | <a href="#">cn8000a_v1.0.077.zip</a> |
| Firmware Upgrade | v1.0.075 | 2018-01-03 | <a href="#">cn8000a_v1.0.075.zip</a> |

- ファームウェアをダウンロードしたら、下記のようにストレート配線のLANケーブルだけを使ってPCと接続してください。（この段階ではまだ、CN8000AにモニターやPCなどと接続しないでください。）



- CN8000AにACアダプターを接続して起動したら、リモートからログインをしてください
- ネットワーク上の設定の問題などによって接続できない、DHCPサーバーによってCN8000AのIPアドレスが変わってしまうという問題を回避するために、まずはLANケーブル直結をした状態で設定を行う事を推奨します
  - もしネットワーク機器を経由した場合にだけ接続が出来ないなどの問題が発生した場合は、ネットワーク管理者の方へ設定などをご確認ください

# CN8000A本体をアップグレードする

- 前ページで用意したファイルを元に、以下を読み進めてください
- 詳細の手順は製品マニュアルの「Main Firmware Upgrade」を併せて参照してください

[https://assets.aten.com/product/manual/cn8000a\\_um\\_w\\_2018-06-14.pdf](https://assets.aten.com/product/manual/cn8000a_um_w_2018-06-14.pdf)

- 製品マニュアルは予告なく更新が発生することがございます。その場合は、製品ページの「サポートとダウンロード」から新しいマニュアルにてご確認ください
- CN8000AのIPアドレスは工場出荷設定で以下の通りとなります。リモートアクセスするPCを以下と同じネットワークセグメントに設定してからアクセスしてください
  - IPアドレス:**192.168.0.60**
  - サブネットマスク:**255.255.255.0**
- リモートPCのInternetExplorerでアクセスする場合はまず、URLでアクセスすると以下の警告画面が表示されます。これはブラウザのセキュリティ仕様により表示されます
- 「このサイトの閲覧を続行する(推奨されません)」をクリックします
  - このリンクが表示されない場合、リモートPCのセキュリティーポリシーやセキュリティーウェアによってアクセスできないように制限されているおそれがあります。その場合はネットワーク管理者へご確認ください。



この Web サイトのセキュリティ証明書には問題があります。

この Web サイトで提示されたセキュリティ証明書は、別の Web サイトのアドレス用に発行されたものです。

この Web サイトで提示されたセキュリティ証明書は、信頼された証明機関から発行されたものではありません。

セキュリティ証明書の問題によって、詐欺や、お使いのコンピューターからサーバーに送信される情報を盗み取る意図が示唆されている場合があります。

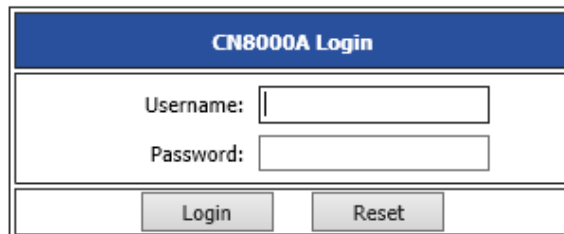
このページを閉じて、この Web サイトの閲覧を続行しないことを推奨します。

 [ここをクリックしてこの Web ページを閉じる。](#)

 [このサイトの閲覧を続行する \(推奨されません\)。](#)

 [詳細情報](#)

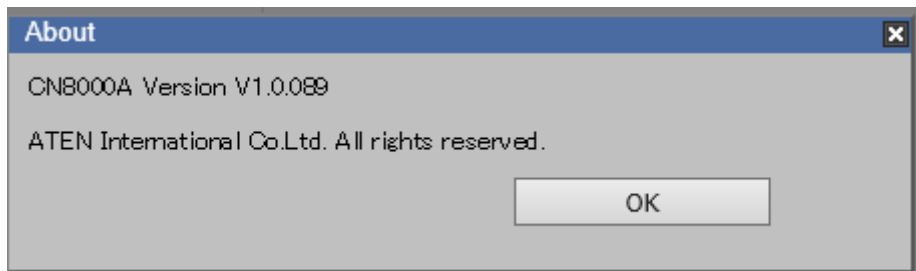
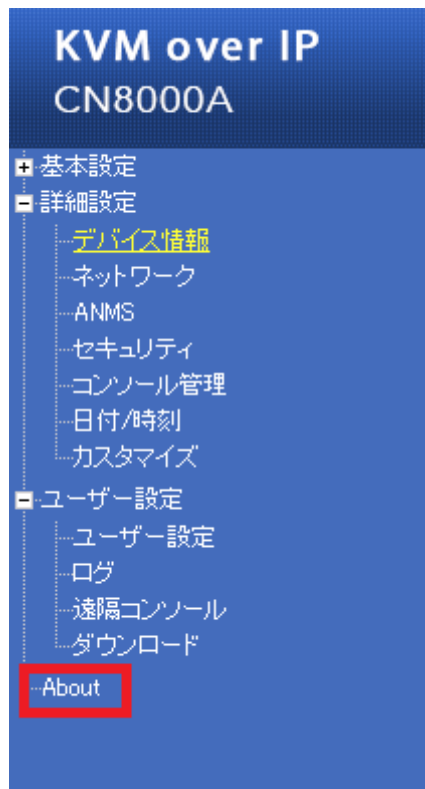
- クリックするとログイン画面が表示されますので、CN8000Aにログインしてください



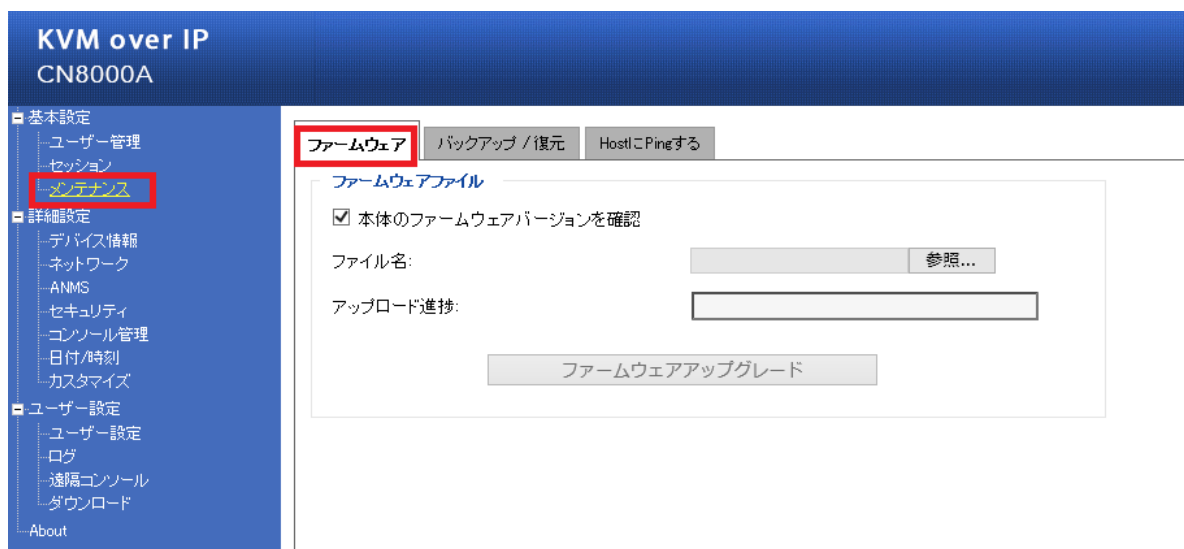
- KNxxxVAの初期設定では以下の通りとなります
  - username: administrator
  - パスワード: password
- ローカルコンソールも同じUserName、パスワードとなります
- v1.0.089以降のバージョンで初回起動時は、[仕様変更](#)により以下のようにパスワード変更を求められるため、任意のパスワードへ変更してください。



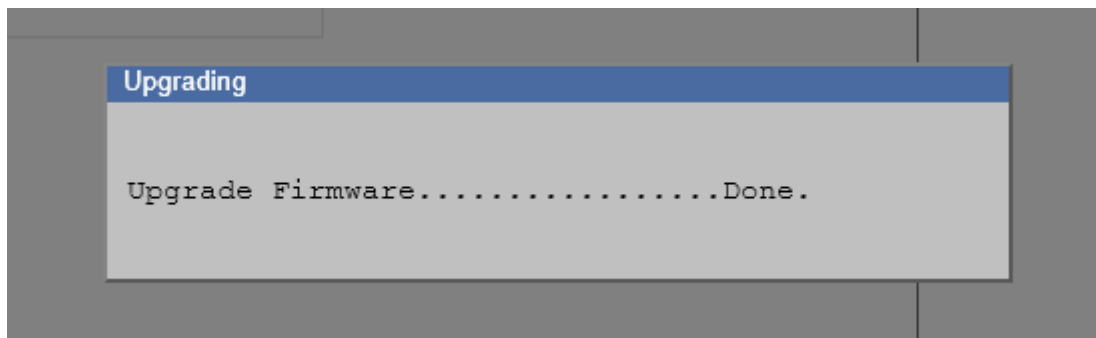
- ログイン後、左ペインの「about」をクリックすることで、CN8000Aのバージョン確認が可能です。



- もし、本体と最新版のバージョンが同じである場合は、この作業は割愛できます
- ※参考・ローカルコンソールで確認する場合は、画面右下の表示から確認が出来ます
- ログイン後、「基本設定 > メンテナンス > ファームウェア」にて、  
「CN8000A\_V1\_0\_089.CSF」のようにダウンロード時のZipファイルから解凍したファームウェアのファイルを参照し、「ファームウェアアップグレード」ボタンを押してください



アップグレードは目安として5分程度掛かります



- アップグレード完了後、自動的にCN8000Aは再起動をしたら完了します
- 再起動は目安として起動からログイン画面の表示までに約2~3分程度掛かります

## ケーブルの接続

---

- CN8000Aを最新にアップグレードした後は、ACアダプターとLANケーブルを外して、接続する機器の電源はONにせずケーブルの繋ぎ込みを行ってください
- 構成によって接続するポイントが異なるため、次ページ以降の接続方法をご参照ください
- 接続図ではリモートPCにおいて便宜上「ノートPC」と記載していますが、デスクトップPCのご利用でも問題ございません
- 弊社製KVMは「有線で接続する」「テンキー付き」「USBハブ機能なし」「タッチパッド並びにトラックボールなし」「USB1.1で動作する」汎用的なキーボードをローカルコンソールに接続されることを想定して設計されています。そのため多機能キーボードなどでのセットアップは行わず、サーバーなどに同梱しているUSB有線キーボードをご利用ください
  - キーボードの選定のガイドラインについては弊社FAQに掲載がございますため、併せてご参照ください

<https://eservice.aten.com/eServiceCx/Common/FAQ/view.do?id=6423>

## CN8000A単体で利用する

- CN8000AとPC1台に接続して使用する場合は、以下のような接続となります
- PS/2またはUSBキーボードやマウスを接続する時、必ずマウスは緑色、キーボードは紫色の専用コネクタと繋げてください。適切な組み合わせで接続しなかった場合は操作入力を受け付けない、異常なスピードで入力(チャタリング)が発生するなどの問題が発生しますためご注意ください
- マウスコネクタ部分には、マウスのアイコンが刻印されています

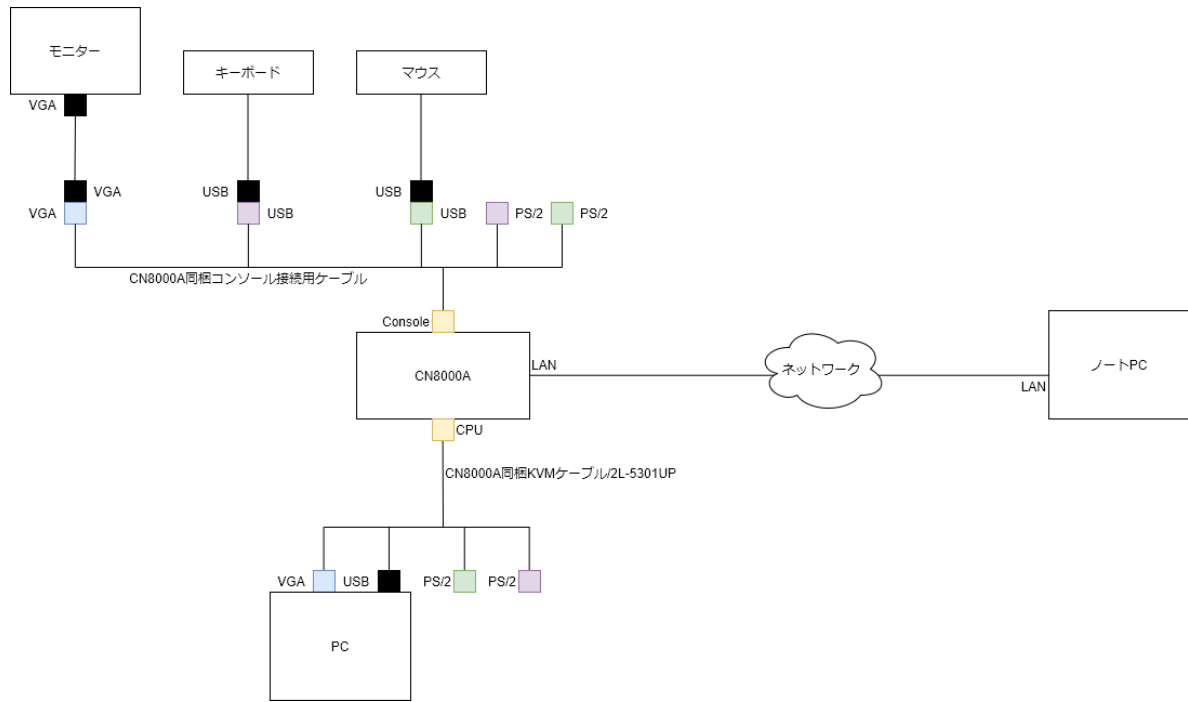


- キーボードコネクタ部分には、キーボードのアイコンが刻印されています



- PS/2とUSBコネクタ両方にキーボード/マウスを接続して、2台のキーボード/マウスでのご利用はできません。片方だけにキーボード/マウスを接続してご利用ください
- キーボードとマウスが1台ずつであれば、「USBキーボードとPS/2マウス」「PS/2キーボードとUSBマウス」という組み合わせでご利用いただけます

下記の接続をした場合にコンソール接続ケーブル、KVMケーブル共にPS/2コネクタに何も接続していませんが、この接続で正しく動作できます



## CN8000AとCS1754を組み合わせて利用する

- CN8000Aに対応する弊社製CS1754と組み合わせた時の接続は以下のようになります。CS1754とCS1758はポート数が異なるだけで同機能を持つ製品のため、CN8000Aと組み合わせて接続する場合は下記の接続にてご利用いただけます
- CN8000A同様に、組み合わせて使用する場合は接続する前にCS1754のファームウェアを最新バージョンにアップグレードしてからご利用ください。ファームウェアをアップグレードしなかった場合は画面が表示されない、操作が受け付けないなどの問題が発生することを確認しております

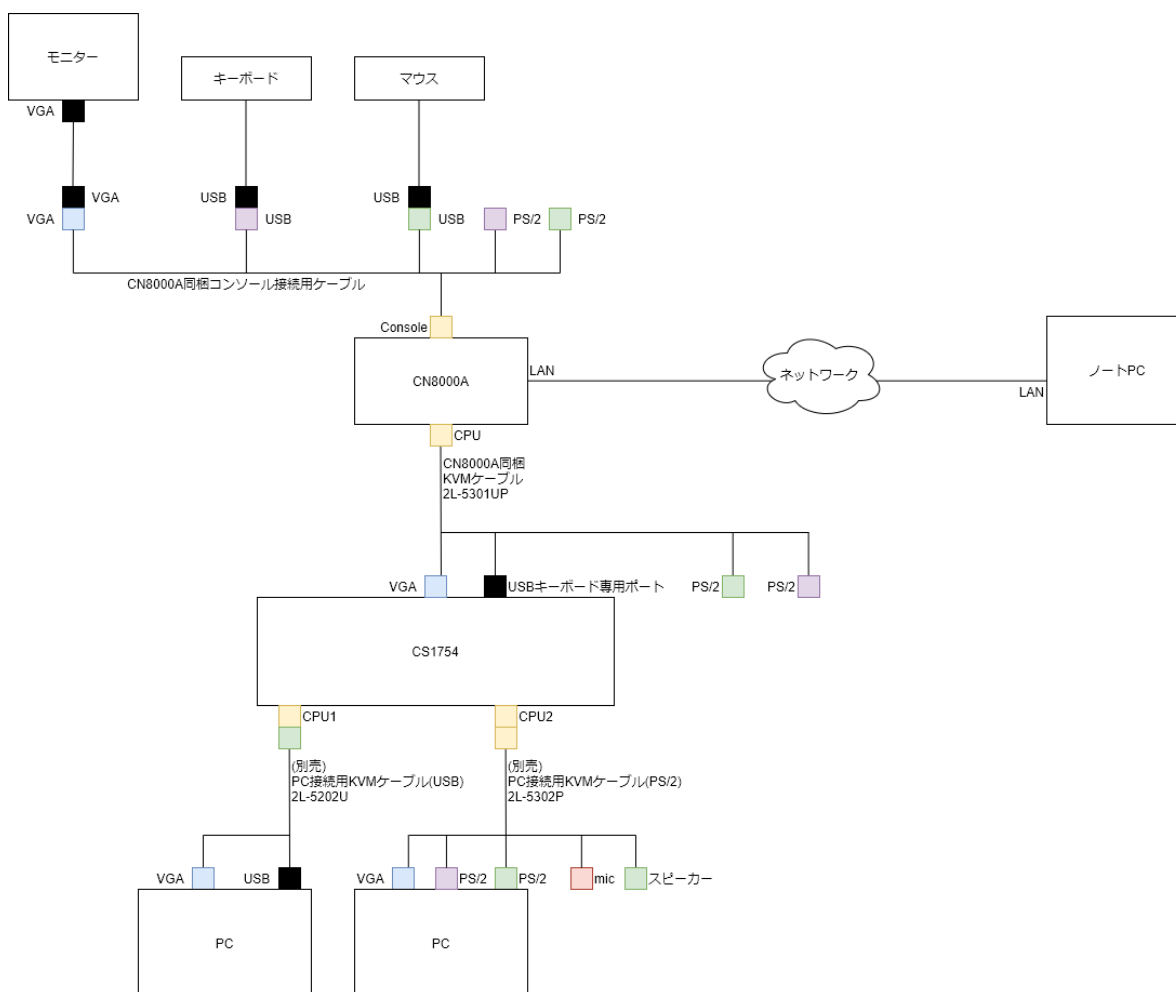
<https://www.aten.com/jp/ja/products/modelno/CS1754>

<https://www.aten.com/jp/ja/products/modelno/CS1758>

- CN8000A同梱PC接続用ケーブル「2L-5301UP」をCS1754に接続する時は、CS1754のコンソール側のキーボード専用USBポートに接続してご利用ください。PS/2コネクタの接続は不要です
  - PS/2コネクタのないKVMケーブルをCN8000A - CS1754間に使用したい場合は、別売の「2L-5202U」をご利用ください

<https://www.aten.com/jp/ja/products/modelno/2L-5202U>

- CN8000Aはオーディオ非対応となるため、CS1754とPC間の接続でスピーカー、マイクのケーブルを接続してもCN8000Aから音声は出力されません



## CN8000AとCS1716Aを組み合わせて利用する

- CN8000Aに対応する弊社製CS1716A(コンソール接続用ケーブル使用製品)と組み合わせた時の接続は以下のようになります。CS1708AとCS1716Aはポート数が異なるだけで同機能を持つ製品のため、CN8000Aと組み合わせて接続する場合は下記の接続にてご利用いただけます
- CN8000A同様に、組み合わせて使用する場合は接続する前にCS1716Aのファームウェアを最新バージョンにアップグレードしてからご利用ください。ファームウェアをアップグレードしなかった場合は画面が表示されない、操作が受け付けられないなどの問題が発生することを確認しております

<https://www.aten.com/jp/ja/products/modelno/1708A>

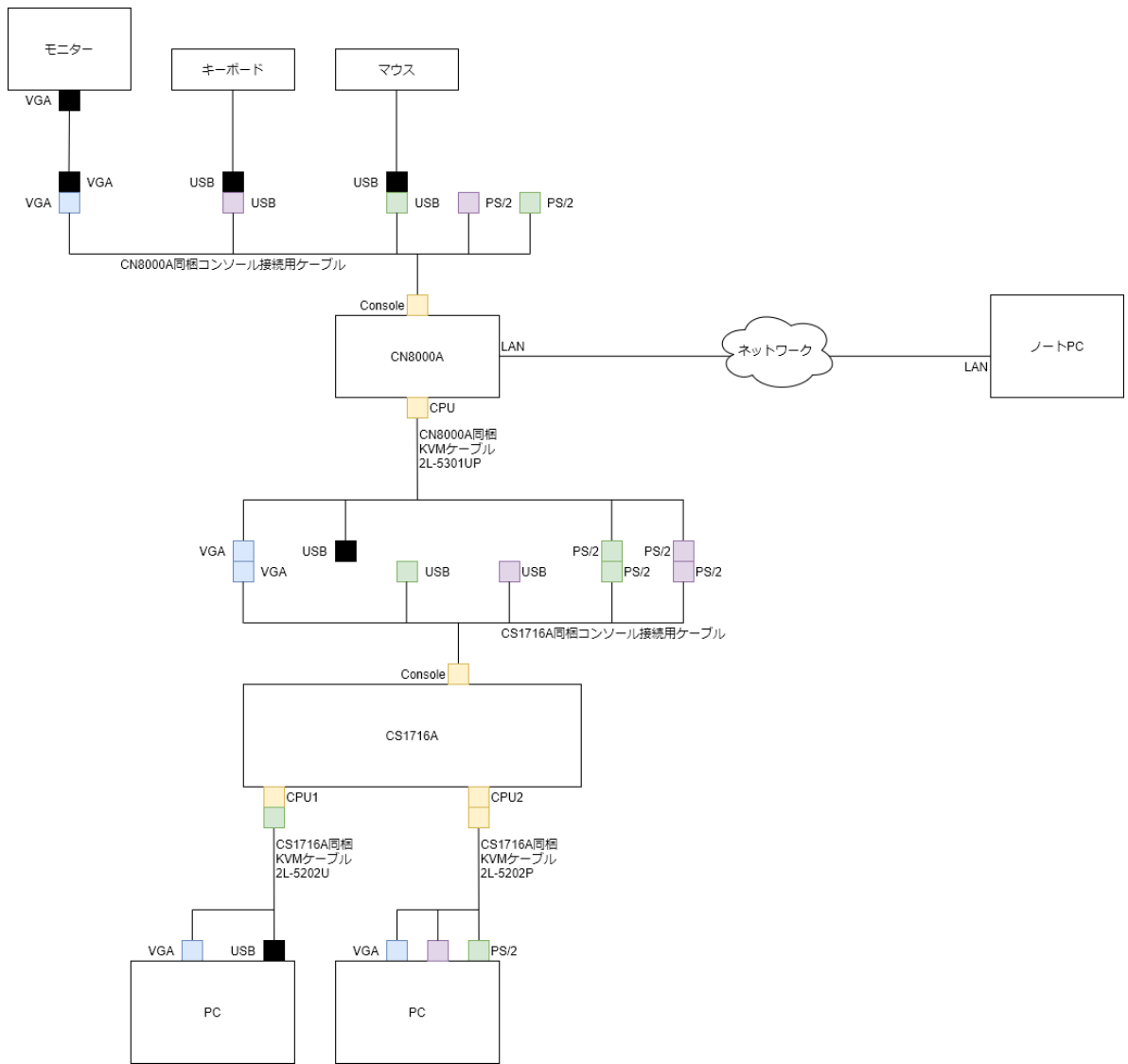
<https://www.aten.com/jp/ja/products/modelno/1716A>

- 2020年4月現在は、機能としてCN8000AとCS1716Aを一体化させた製品「CS1708i」または「CS1716i」を販売しておりますため、増設ではなく新規での検討をしている場合は、こちらも併せてご検討ください

<https://www.aten.com/jp/ja/products/modelno/1708i>

<https://www.aten.com/jp/ja/products/modelno/1716i>

- CN8000AとCS1716A間は必ずPS/2コネクタのキーボード、マウス専用コネクタ両方の接続を行ってください。USBは接続せずにお使いください。USB接続した場合にキーボードやマウスの操作ができなくなります
  - USBコネクタがないKVMケーブルを使用したい場合は別売の「2L-5202P」をご利用ください



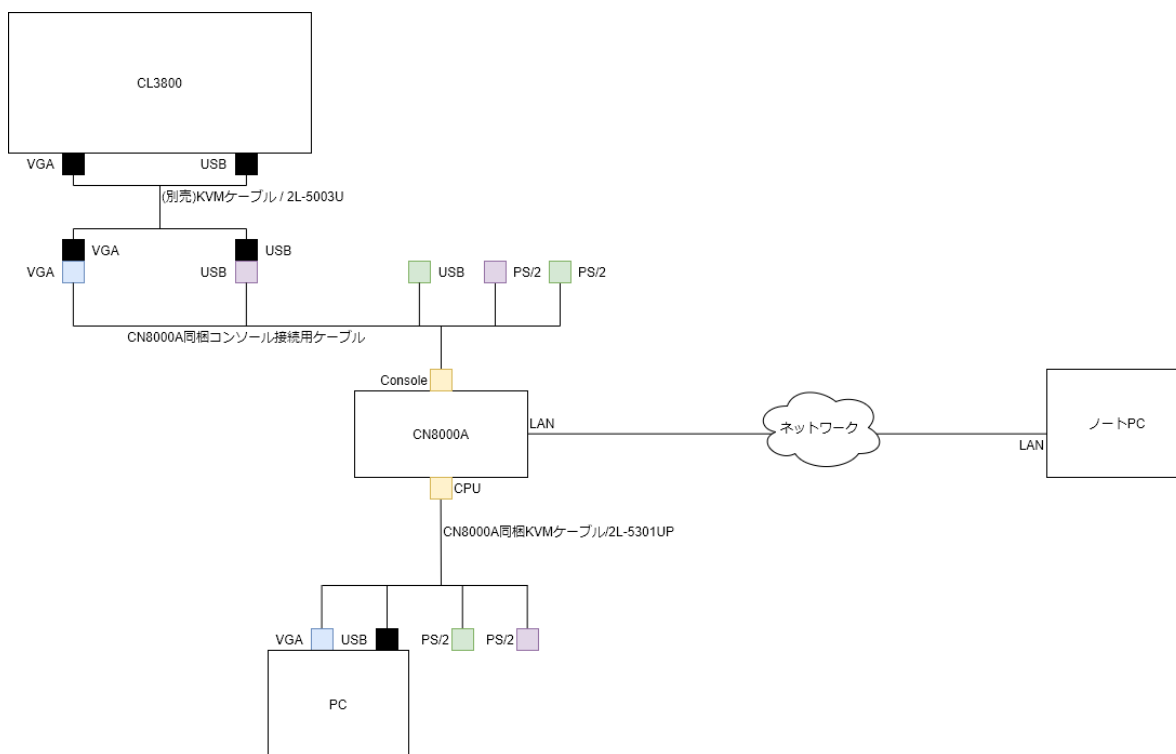
## CN8000AとCL3800を組み合わせて利用する

- ローカルコンソールに弊社製コンソールドロワーCL3800と接続する例となります

<https://www.aten.com/jp/ja/products/modelno/CL3800>

- CN8000A同様に、組み合わせて使用する場合は接続する前にCL3800のファームウェアも最新バージョンにアップグレードしてからご利用ください。ファームウェアをアップグレードしなかった場合は画面が表示されない、操作が受け付けないなどの問題が発生することを確認しております
- コンソールドロワーと接続する場合、CN8000Aのコンソール接続用ケーブルのキーボード(紫色)と接続してご利用ください
  - CL3800はVGA用KVMケーブルが同梱されていないため、この構成で接続する場合は以下のケーブルが必要となります
    - 弊社製、別売りVGAオス-メス+USBケーブル「2L-5003U」
      - オス-メス形式のVGAケーブルとTypeA- TypeBコネクタ形式のUSBケーブルそれぞれ接続してもご利用いただけます

<https://www.aten.com/jp/ja/products/modelno/2L-5003U>





## 電源投入

- 設定が完了してから、一度CN8000Aの電源を落とし、以下の順番で電源を投入してください。  
まずはモニターから電源を入れて、モニターに接続している機器から順番に立ち上げてください
    - 電源投入の間隔としては、起動準備が完了してから次の機器を立ち上げる、という順番で実施することを推奨します
1. モニター(またはドロワー)
  2. CN8000A本体
  3. (もし接続していれば)CN8000Aに接続しているKVM本体
  4. CN8000Aに接続しているPC/サーバー
- この順番を守らず、ブレーカーやUPSなどの電源一斉立ち上げをした場合、サーバーがKVM経由でモニターの解像度情報を取得できず、映像が表示できないおそれがあります
  
  - これでCN8000Aの基本的なセットアップは完了です

# リモートからアクセスする

---

- CN8000AはPCや専用コンソールモジュールを使用して、遠隔地からLANを通じてアクセスし、サーバーの画面表示や操作が可能です。その時、画面表示操作をするためには専用ビューワーアプリ「WinClient」または「JavaClient」が必須となります

## WinClient / JavaClientの違い

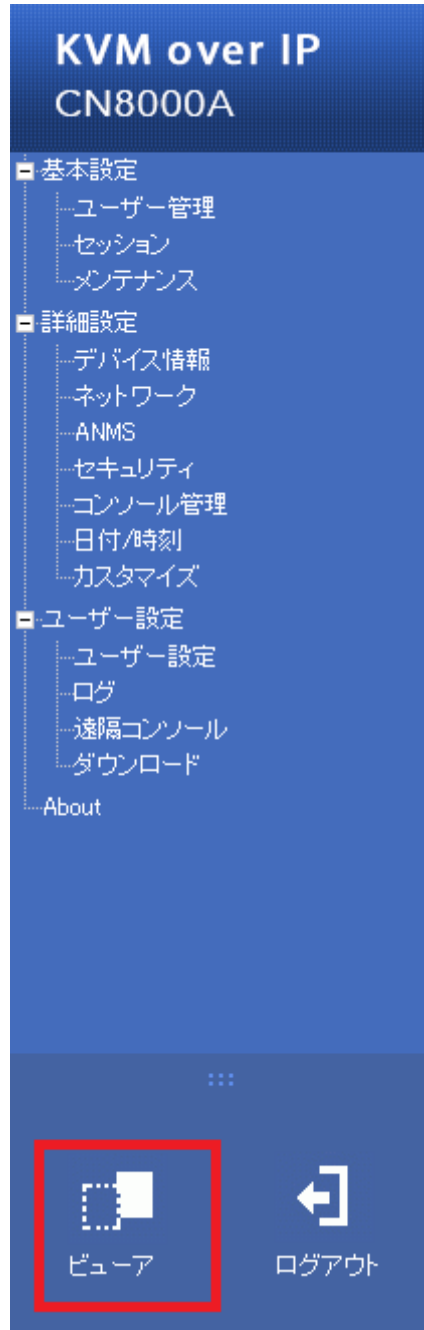
---

- WinClientはWindows向けに開発されたアプリ、JavaClientはMacやLinux向けのアプリとなります
- WinClient / JavaClientは細かく分けると以下の種類があります
  - IEのActiveXにて動作するWinClient(ブラウザから起動)
  - IE以外のブラウザにて起動するJavaClient(ブラウザから起動時にJavaRunTimeを使用して起動)
  - EXE形式アプリとして動作するWinClient(管理ページからダウンロードしてから使用)
    - LUCポート(USB接続)専用WinClient(LUCで接続した時に使用できるストレージで使用)
  - jar形式アプリとして動作するWinClient(管理ページからダウンロードしてから使用)
- 特別な制限がない限りは「ブラウザから起動するWinClient」または「アプリ版のWinClient」でのご利用を推奨します

# WinClient / JavaClient入手方法

## ブラウザ版WinClientを起動させる

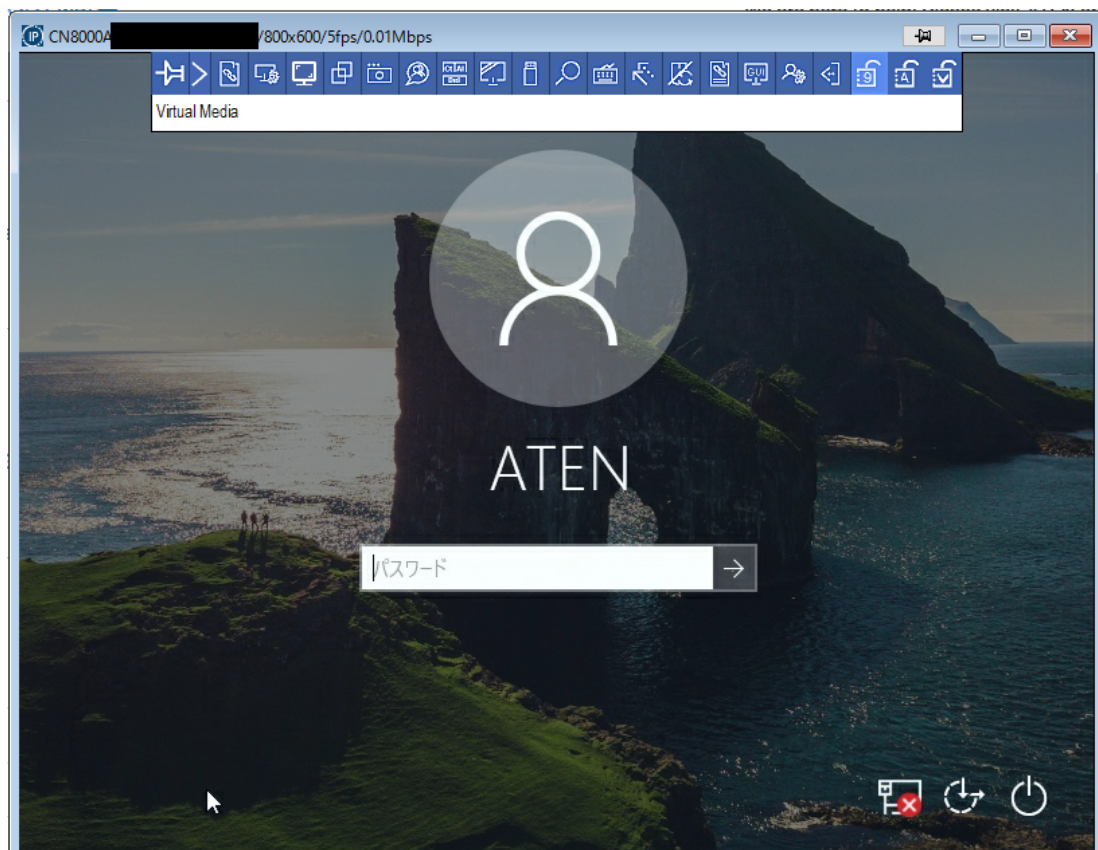
- ブラウザ版WinClientを利用するため、専用のActiveXアドオンをリモートPCにインストールします
- InternetExplorerを管理者権限で起動させてからログインを行ってください



- 左ペインの「ビューア」をクリックしてください
- ポップアップが表示され、弊社表記のアドオンをインストールすることを求められるので「許可」ボタンをクリックしてください



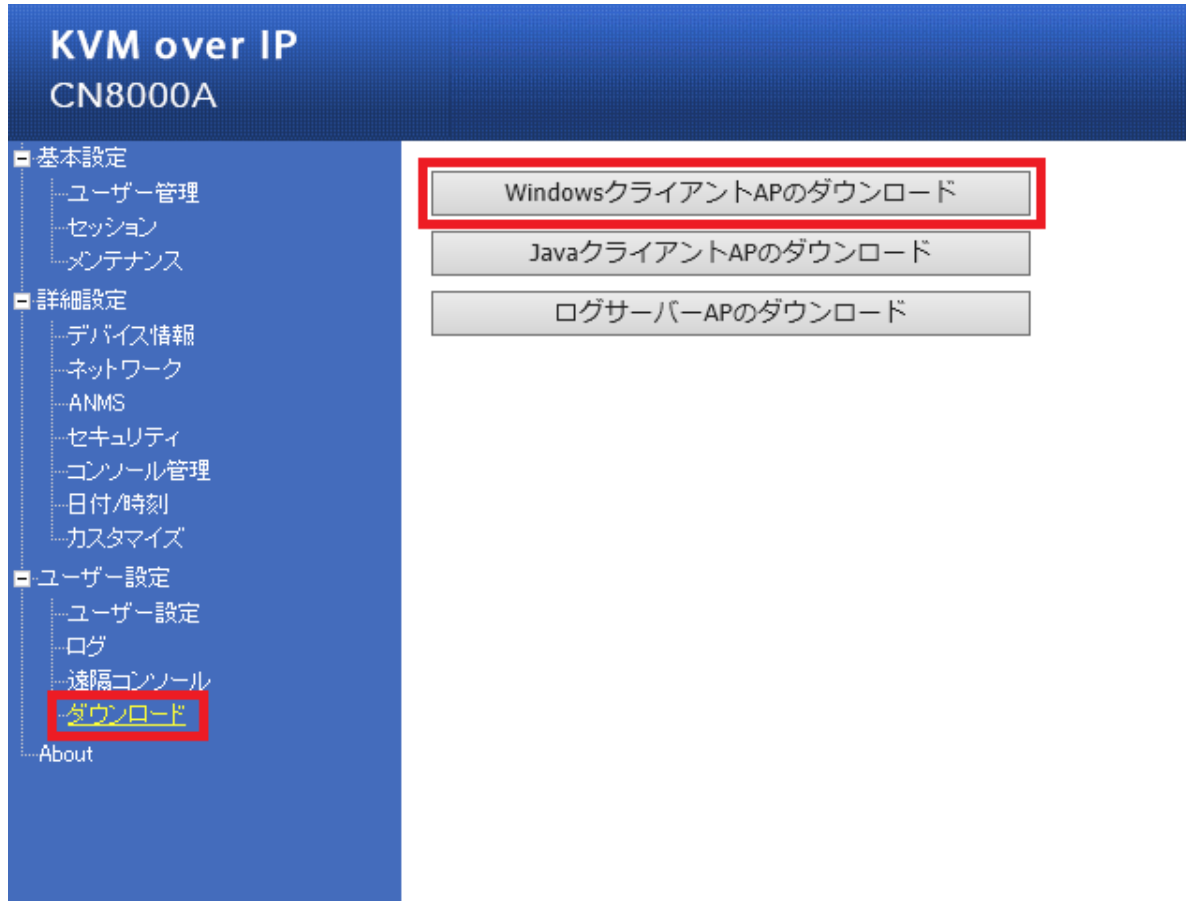
- この後は、リモートPCの環境によっては「object not found」とポップアップにエラーメッセージが表示されるだけ、または何も反応せずにウインドウが閉じて、アプリが起動しないことがあります。この場合は一度CN8000Aの管理画面からログアウトしてからブラウザを閉じ、再度ブラウザを立ち上げてから、「ビューア」をクリックして起動を行っててください



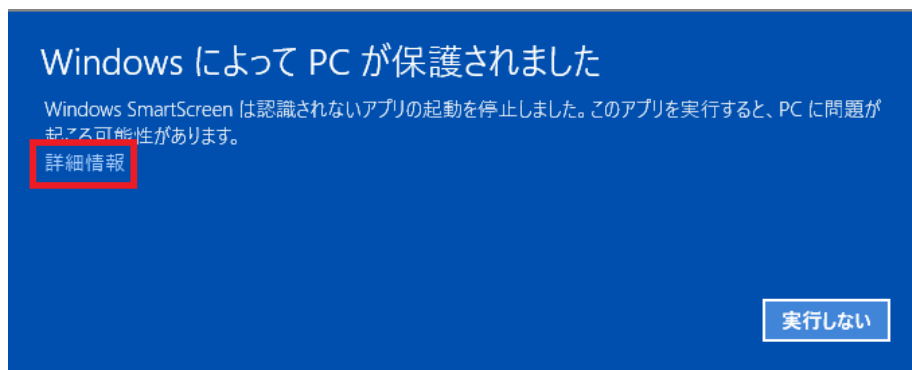
- アプリの起動が成功すると以上のような接続先のサーバーの画面が表示されます
- 画面中央上に表示されているアプリ用のメニューは、マウスカーソルを画面中央上に近づけると表示します

## exe版WinClientを起動させる

- ブラウザからアクセスし、左ペインの「ダウンロード」をクリックして「WindowsクライアントAPのダウンロード」をクリックして、WinClient.exeをリモートPCの任意のフォルダに保存してください
- このファイルをダウンロードする場合はFirefox、chromeなどの非IE系ブラウザでも実施できます



- 保存したWinClient.exeを実行するとWindows10環境では以下のような警告が表示されることがあります。その場合は、「詳細情報」をクリックしてください



- 「詳細情報」が表示されない場合、リモートPCのセキュリティーポリシーやセキュリティーウェアによってアクセスできないように制限されているおそれがあります。その場合はネットワーク管理者へご確認ください
- 「実行」を押して起動します

## Windows によって PC が保護されました

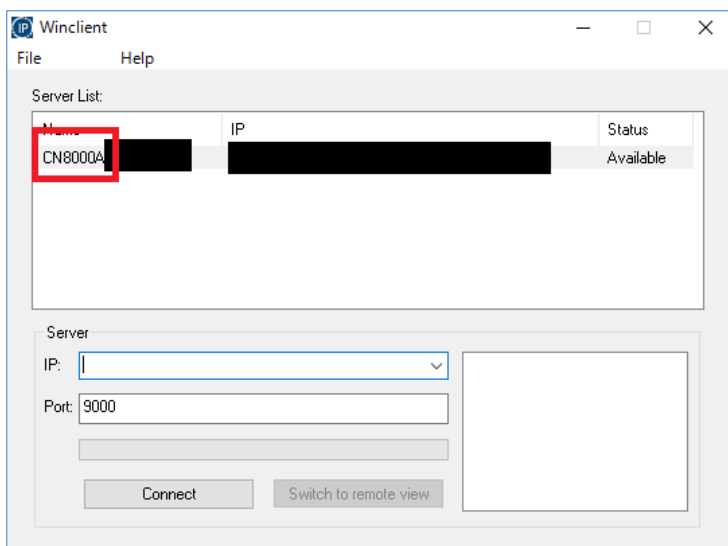
Windows SmartScreen は認識されないアプリの起動を停止しました。このアプリを実行すると、PC に問題が起こる可能性があります。

アプリ: WinClient.exe  
発行元: 不明な発行元

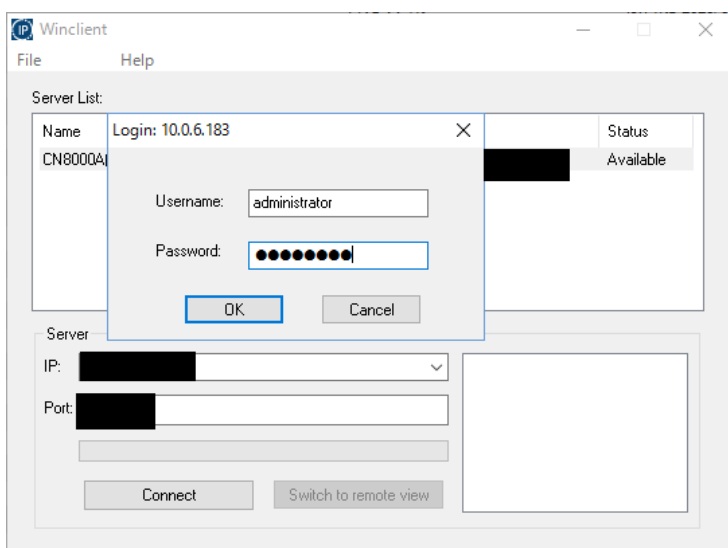
実行

実行しない

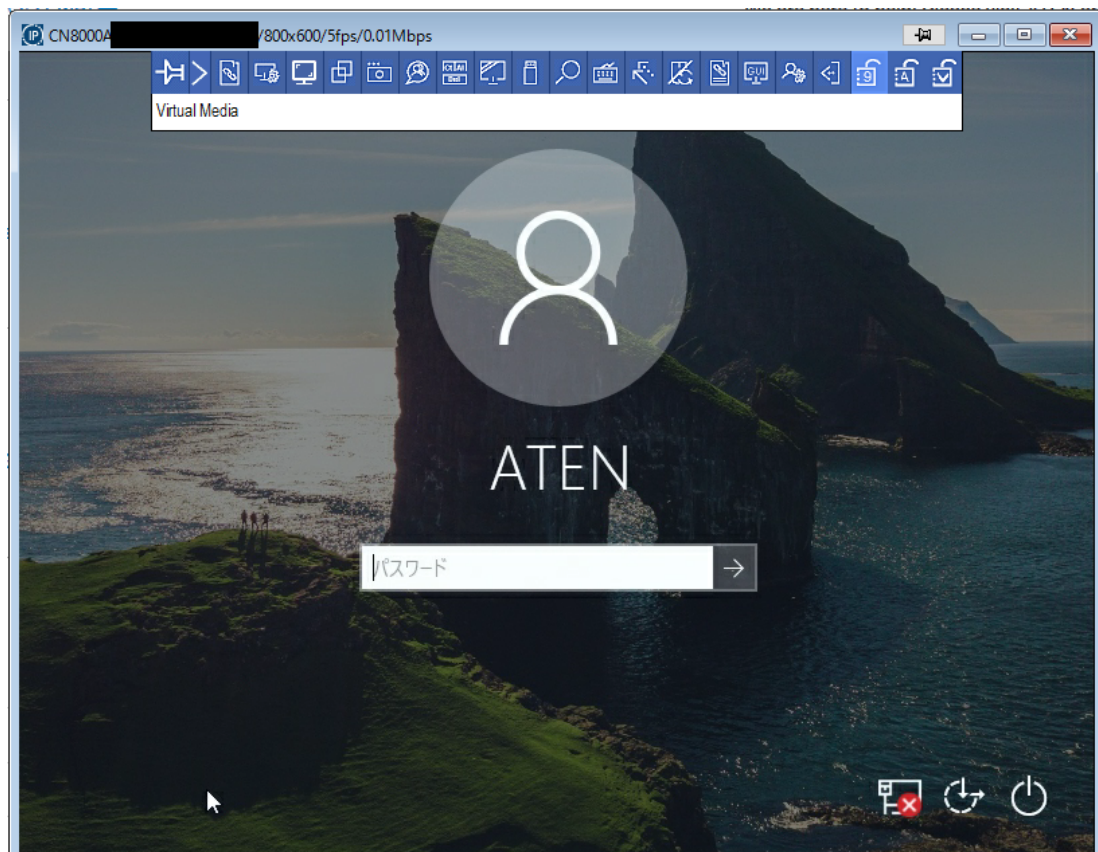
- 正常に実行されると中央のリスト表示で弊社製品がリスト表示されます。「Name」にて表示されている型番をダウンロードします




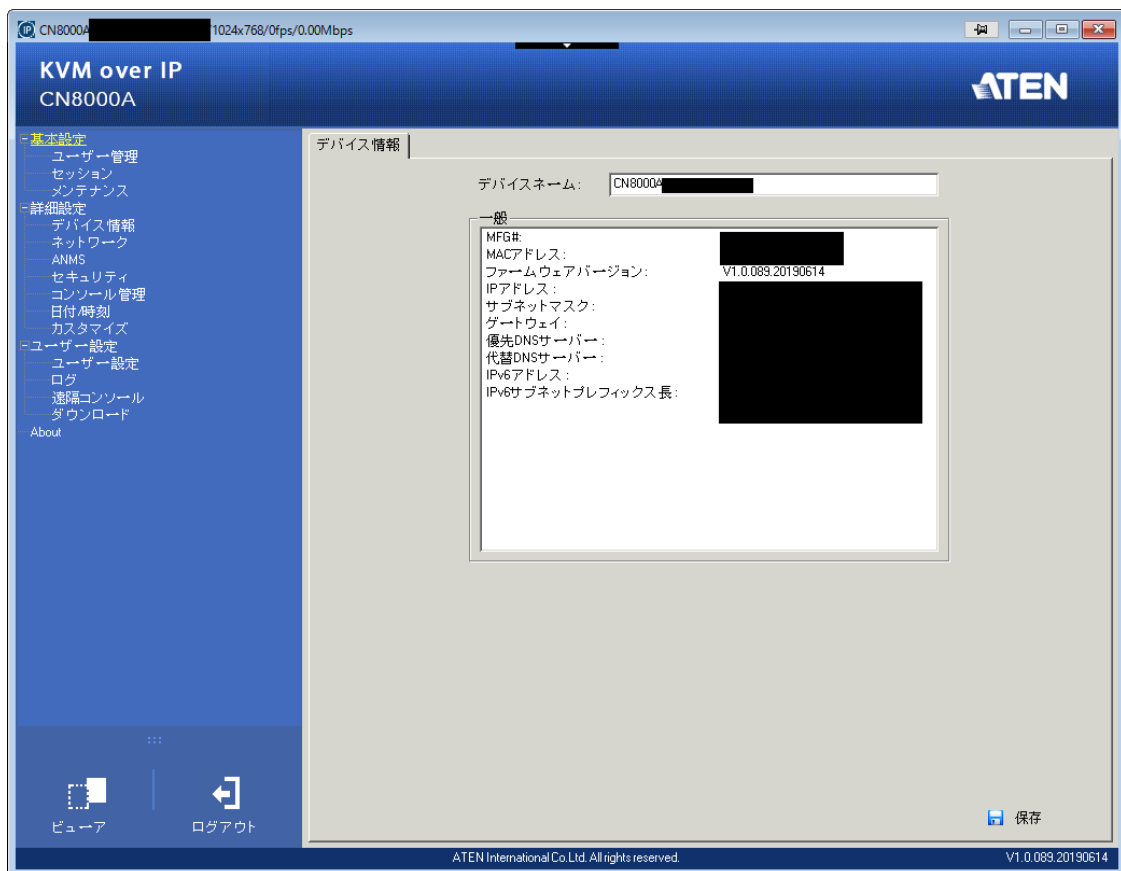
- ログインに必要なUserNameとパスワードを入力し、「OK」ボタンを押します



- ログインが成功すると「Switch to remote view」ボタンがアクティブになるので、このボタンを押します



- これで、ブラウザからログインせずにCN8000Aに接続しているターゲットPCへアクセスできるようになりました。この画面から管理画面を呼び出す場合は、画面中央上のメニューから「」を押すか、キーボードの[Scroll Lock]キーを2回押してください。



- 管理画面から操作に戻りたい場合は左下の「ビューア」をクリックしてください

# JavaClientの起動方法

---

- ※注意・Javaについては、2019年4月から変更された使用ライセンスポリシーにおいて商用利用した場合はOracle社へのライセンスの支払いが発生するように変更されました。そのため、ご利用に注意が必要です
- Oracle社とのライセンス契約について不明な場合はネットワークやIT資産管理者の方に確認を行って使用するべきか確認を行ってください。もしこれらのJavaに関しての知見が無い場合は、リモートPCをWindows環境+WinClientを利用することを強く推奨します
- 以下は、使用する場合の手順となります
  - リモートPCにJavaRunTimeEditionをインストールし、リモートの環境にてjavaのbinフォルダをOSの環境変数に登録を行ってください
    - 弊社ではJavaの無料ライセンスでは最終となるversion8 update201で動作を確認しております
    - OpenJDKは動作非対応となります
  - jnlp形式のファイルは、リモートPCのJava/binフォルダ以下のjavaws.exe(Java webstart)から開くことで起動できます
  - jar形式のファイルは、Windowsだと「ファイル名を指定して実行する」、MacやLinuxからはターミナルより以下のコマンドを入力して起動できます
    - `java -jar javaclient.jar`

# その他、主に使用される設定について

## 各アカウントの権限設定について

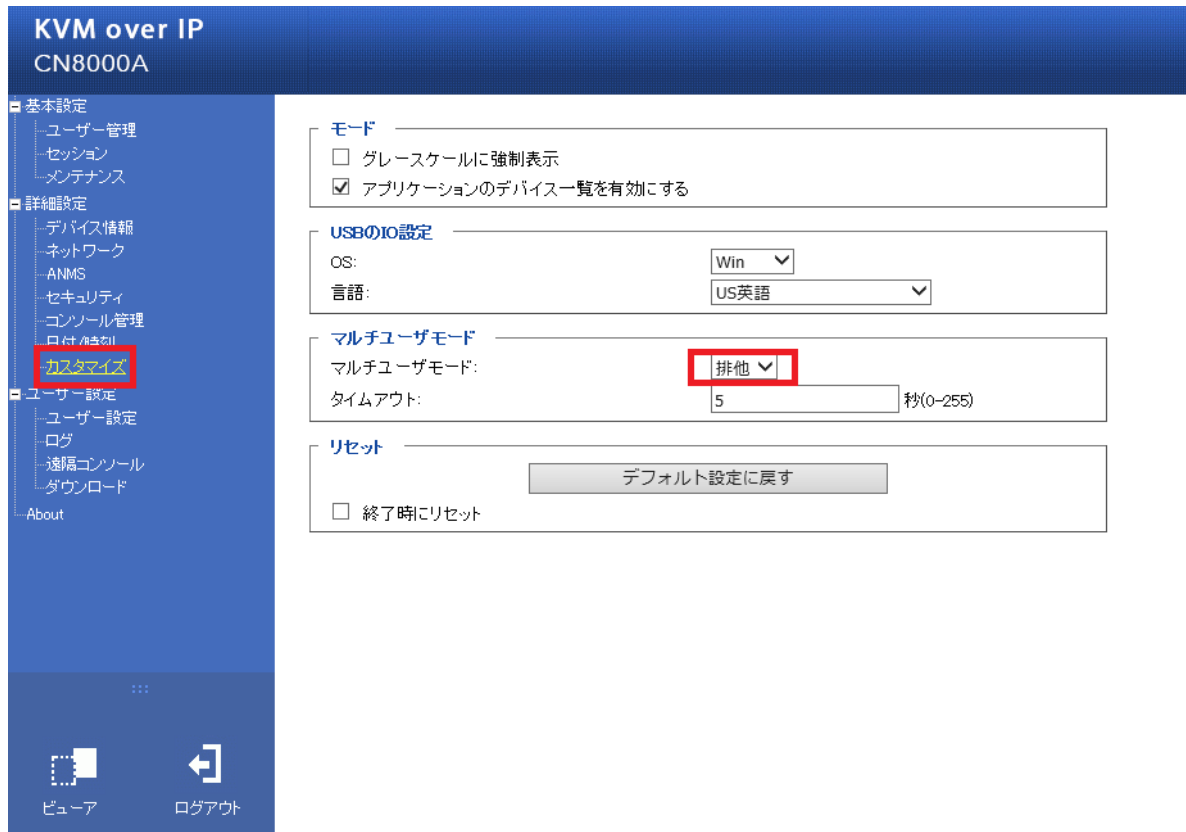
- CN8000Aは、2種類のアカウントの種類があり、基本の機能+設定にて権限許可のカスタマイズができます
  - **アドミニストレーター:** CN8000A本体の全機能アクセスと設定権限(設定変更による制限不可)
  - **ユーザー:** 許可されたポートへのアクセスとビューワアプリのダウンロード(権限カスタマイズ可能)

## 一般ユーザーアカウント作成時の注意点

- 一般ユーザーのアカウント作成時には、CN8000Aの設定権限は全く付与されていない状態で作成されます。そのため、以下の「許可」の項目にて機能権限について確認した後に、「デバイス」をクリックしてください
- 各ポートに対しては、以下のような権限設定が可能です
  - **Windowsクライアント:** Winclientからのアクセスを許可します
  - **Javaクライアント:** Javaclientからのアクセスを許可します
  - **参照のみ:** リモートからは画面表示だけで、キーボード/マウスの操作権限は付与させません
  - **設定:** CN8000Aの設定権限を付与します
  - **システムログ:** CN8000Aのログ閲覧、操作権限を付与します
  - **モノクロに強制表示:** リモートからのアクセスで画面表示を強制的にモノクロ表示にします
  - **Telnetクライアント:** リモートからtelnetによるアクセス権限を付与します
  - **SSHクライアント:** リモートからSSHによるアクセス権限を付与します
  - **電源管理:** (2020年現在、日本市場向けでは使用されていないレガシー機能で、設定不要です)
  - **Virtual Media有効:** バーチャルメディア使用時の設定。「読み/書き」「読取専用」
    - 「読取専用」はマウントしたメディアがread onlyとなり、CN8000AにKVMケーブルで接続しているサーバーから、バーチャルメディア(リモート側)にデータを書き込めない、という意味になります
- 設定が完了したら、画面右下の「保存」ボタンを押してください

# 同時アクセス時の権限設定について

- CN8000Aは複数のリモートユーザーが同時に同じサーバーを操作、画面表示ができる設計になっているため、同時にリモートからアクセスした時のユーザーの権限についての設定があります
- 「詳細設定 > カスタマイズ > マルチユーザモード」のプルダウンメニューから、同時アクセス時の権限について設定が出来ます。設定を選んだら、右下の保存ボタンを押してください
- この設定はローカルコンソールには影響されません。ローカルユーザーと権限を持つリモートユーザーが常時「共有」権限の固定(設定不可)となります。



- アクセスモードは3種類あります

- **共有(Share):** 複数のユーザーが同時に画面表示、操作ができます。そのため、いつでも操作が出来ますが同時に複数ユーザーが操作した場合に誤操作が発生するおそれがあります
- **占有(Occupy):** 複数のユーザーが同時に画面表示できますが、早い者勝ちで最初に入力操作した人が権限を取得します。そして上記スクリーンショットの「タイムアウト」の秒数で設定した時間無操作でいると、権限が解放され後、最初に操作した人が権限を取得します
- **排他(Exclusive):** 最初にアクセスした人だけが権限を取得し画面表示、操作ができます。そして、セッションを終了するまで他のユーザーがそのポートにアクセスした時には、黒画面かつ左上に「Other user occupied(他ユーザーが占有しています)」のメッセージが表示されます

## 転送速度を制限させて追従性を向上させる方法

- CN8000Aは工場出荷設定では、ネットワーク転送速度に制限を掛けていない状態で出荷されます

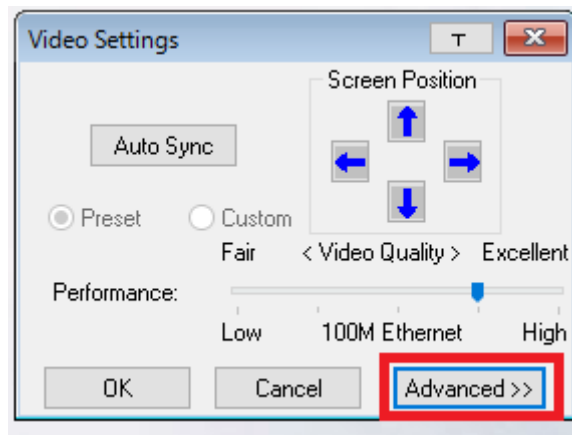
- 使用する環境によってはネットワーク帯域の不足や、リモートアクセスのPCにて転送された映像データの処理が間に合わず操作に対して映像が遅延したように見えるケースがございます
- そのため、リモートアクセスからの操作で遅延が発生する場合は「詳細設定 > ネットワーク > ネットワーク転送速度」の項目を「99999(制限を掛けていない)」から「10240」などの数値を入力して、右下の保存ボタンを押してください。それでも遅延が発生する場合はデータ転送量を調整して遅延が軽減されるかお試しください

The screenshot shows the 'KVM over IP' configuration page for device 'CN8000A'. The left sidebar contains navigation menus for 'Basic Settings', 'Detailed Settings', 'User Settings', and 'About'. The 'Network' option is selected under 'Detailed Settings'. The main content area is divided into sections: 'IPv6 Settings', 'DNS Settings', and 'DDNS'. In the 'IPv6 Settings' section, the 'Network Transfer Rate' field is highlighted with a red border and contains the value '99999'. Below this, the 'DDNS' section is visible with fields for 'Host Name', 'DDNS', 'User Name', 'Password', and 'DDNS Retry Count'. A 'Save' button is located at the bottom right of the configuration area.

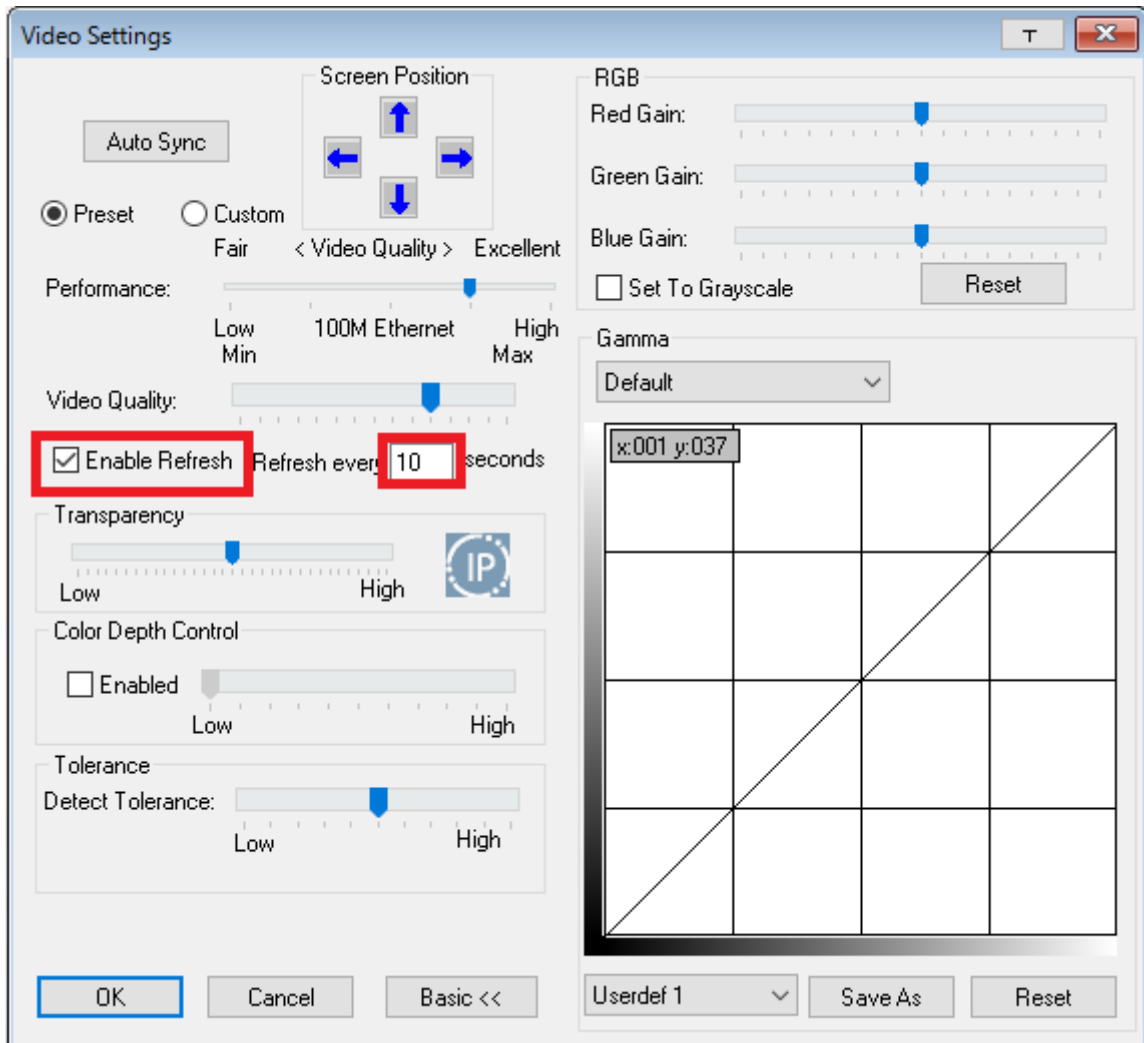
- また、アプリ上の設定は転送速度の圧縮効率を高めるため、静止画表示でブロックノイズが表示されることがございます。正しい挙動となりますが、一定時間ごとに映像データを強制的に取得しリフレッシュさせたい場合は、ビューアから以下の手順で設定を行ってください

The screenshot shows the application's top toolbar with various icons for navigation and control. The 'Video Settings' icon, which depicts a monitor with a gear, is highlighted with a red box. Below the toolbar, the text 'Video Settings' is displayed.

- アプリの上メニューから「Video Setting」をクリックします



- 「Advanced」をクリックします



- 「Enable Refresh」にチェックを入れて、映像データを取得したい周期の秒数を設定したら「OK」ボタンを押して設定を変更してください

## ブラウザの自動ログアウト設定を無効にする

- 管理画面にログイン後、「ユーザー設定 > ユーザー設定 > 設定 > ログアウトタイムアウト」にて「0」分と入力して、「保存」ボタンを押してください。この設定することで、自動的に管理画面からのタイムアウト設定が無効になります

## KVM over IP CN8000A

### 基本設定

ユーザー管理  
セッション  
メンテナンス

### 詳細設定

デバイス情報  
ネットワーク  
ANMS  
セキュリティ  
コンソール管理  
日付/時刻  
カスタマイズ

### ユーザー設定

**ユーザー設定**  
ロック  
遠隔コンソール  
ダウンロード  
About

### 設定

言語:

OSDホットキー:

ログアウトタイムアウト:  分

ログイン後にビューワーを起動する

ビューア:  自動検出  Java Client

旧パスワード:

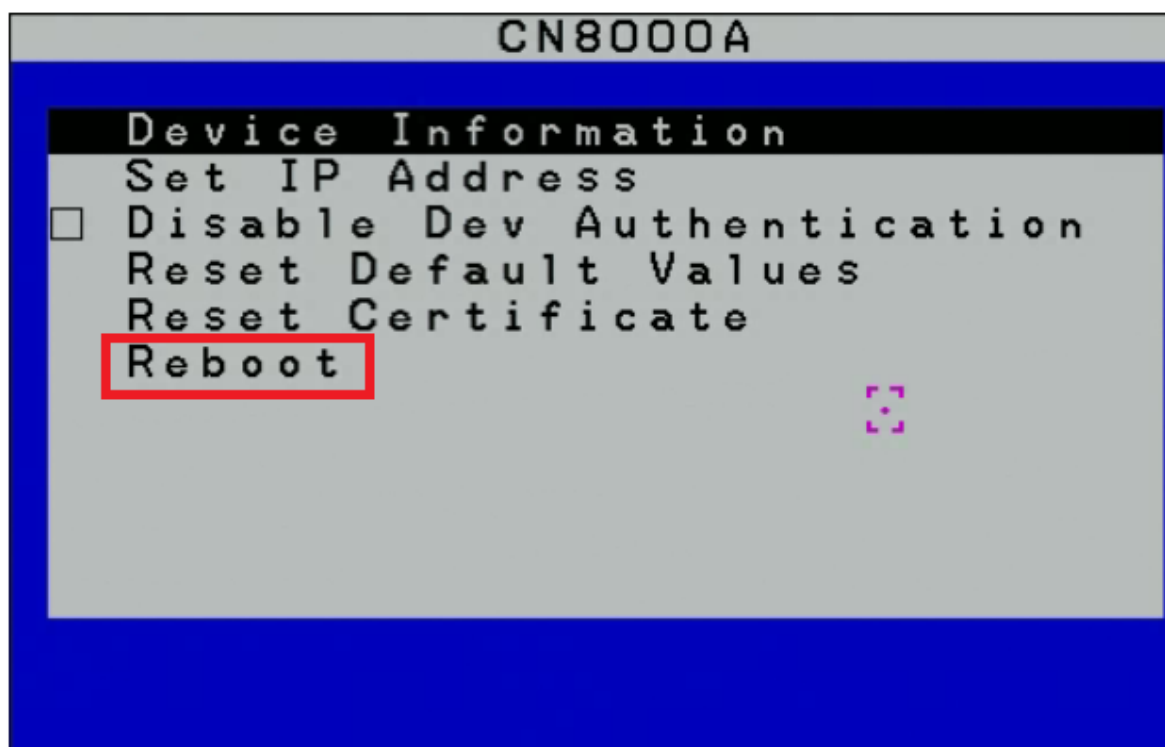
新パスワード:

確認用パスワード:

- 設定後、本体は即時設定が反映されますが、ブラウザ側のキャッシュに反映されないために設定してもログアウトすることがございます。この場合は一度ログアウトし、ブラウザのキャッシュを消去してから再度アクセスすることで、設定が反映された状態でご利用いただけます
- CN8000A本体が再起動すると、この設定を無効にしても強制的にログアウトします

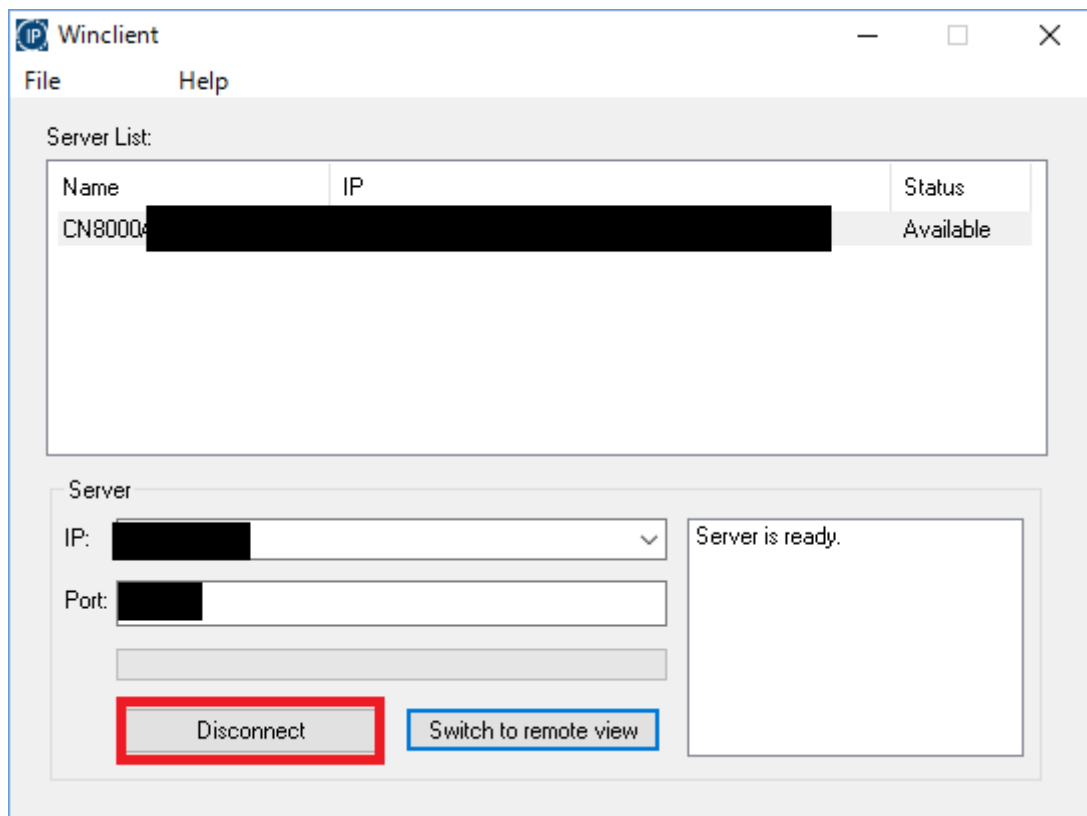
## ローカルコンソール側でCN8000Aを再起動させる

- CN8000Aのローカルコンソールから[Scroll Lock]キーを2回押してメニュー画面を呼び出してください
- メニュー画面からログイン後、「Reboot」の項目で「Enter」キーを押すと数秒後にCN8000Aが再起動します
  - 「Enter」キー入力後、約10～20秒後に本体は再起動します。CN8000Aは本体にスピーカーが無いため鳴りませんが、PC側ではデバイスの抜き差し音が鳴ります
  - この時、リモート側のアクセスも全て強制的に通信断に出来ます



## リモートコンソール側でCN8000Aを再起動させる

- CN8000Aの管理画面から、「詳細設定 > カスタマイズ > リセット」にて「終了時にリセット」をチェックを入れて、画面右下の「保存」ボタンを押してください
- ブラウザまたはWinClient/JavaclientからログアウトするとCN8000Aは再起動します
  - ※注意・WinClient/Javaclientはアプリのビューア画面のウィンドウを閉じても終了しません。終了させる場合は、下記のログインウィンドウを閉じるか、「Disconnect」ボタンを押して完全なログアウトをしてください



# FAQ

---

- 以下の記事以外にも、弊社技術サポートサイト「eSupport」では随時FAQを公開しているため、併せてご参照ください
- 検索ワードには問題に関する単語の他にも、型番入力での検索にも対応しています

[https://eservice.aten.com/eServiceCx/Common/FAQ/list.do?lang=ja\\_JP](https://eservice.aten.com/eServiceCx/Common/FAQ/list.do?lang=ja_JP)

## 対応するOSを知りたい

---

- CN8000Aシリーズが対応しているOSは製品マニュアルに記載がございますため、ご確認ください。マニュアルでは基本的にOSに起因する問題が無いということで掲載をしています
- また、これらのOSなどについては別途専用のデバイスドライバーは不要でOSに組み込まれているドライバーにて動作することを確認しています
- OSの動作は確認していても、実際に利用するサーバーのUSBチップセットドライバーなどによって組み合わせ上の相性問題が発生するおそれがございます。以下の方法にて改善されるかお試しください
  - サーバー側のUSBチップセットドライバーを最新または過去バージョンに変更する

## ログインできない

---

- 初期設定でusernameは「administrator」 passwordは「password」と登録されています
- セキュリティの観点から、この製品ではログイン画面の省略はできません
  - セキュリティの設定にてパスワードの意図的な無効化は出来ませんが、ログイン画面は必ず表示されます
- また、2020年1月からアメリカ合衆国カリフォルニア州にて施行されたIoTセキュリティ法に準拠するため、v1.0.089より初回ログイン時にデフォルトパスワードの変更が必要になるよう変更を行っております
- スーパーアドミニストレーターのパスワードを忘れてしまった場合は、本体設定を初期化することで復旧が可能です。詳細の手順は製品マニュアルの「Administrator Login Failure(アドミニストレーターでログインできない場合)」をご参照ください。この作業をする際にジャンパーピン(PCで広く利用されているサイズである、ピッチ2.54mm)が1つ必要となります
  - この初期を行う時は必ずCN8000Aの設定バックアップを作成してから、実施してください。初期化後、バックアップしたデータをレストアする時にアカウント情報以外を復旧させることで設定を保持したまま、アカウント設定のみを初期化させることができます。またレストアはリモートアクセスからでのみ実施できます

## サーバーが起動したままでもセットアップして利用できるか？

---

- 組み合わせる使用するKVMケーブルによって可能/不可となります
  - USBコネクタでの挿抜は一般的なキーボードマウス、他デバイスとWindowsOS上では専用ドライバーが不要なUSBデバイスとして認識されるため、セキュリティの制限を掛けていな

- い場合であれば、そのままご利用いただけます
- PS/2コネクタはホットプラグに挿抜に対応していないため、コネクタを外すと再度接続してもそのデバイスを再認識できず、サーバー側の再起動が必要となります
  - VGAのコネクタはサーバー側の仕様によりますが、例えばHPE製Gen10サーバーでは、サーバーの起動時にしかモニター情報を取得しない、というような挙動が発生します。そのため、サーバーが起動している状態でVGAコネクタを接続してもモニターに表示する映像が大きくずれる、「Out of range」など一時的に非表示になってしまう可能性があります
  - RS232のコネクタはホットプラグに挿抜に対応していないため、アップグレードなどによってコンピューターモジュールまたはシリアル機器内のバッファメモリのごみデータによって一時的な文字化けが発生することがあります。この場合は、シリアルケーブルの挿抜とサーバーや機器側のアプリまたはOSの再起動が必要となることがあります

## モニターの解像度を変更できない

- 既知の問題として、Debian5.0系のOSはプログラム上、モニターの解像度情報を再取得が出来ないことを確認しています(xrandrコマンドの初期バージョンではEDIDの再取得が出来ないため)。この問題からサーバー構築時のモニターと異なるモニターを接続した場合に画面が正しく表示できない、改造度変更が出来ないといった問題を確認しています
- サポート外の参考情報となりますが、同様にWindowsVistaSP1以前のWindowsOSでも、EDIDの概念が実装されていない製品となるため、現行のハードウェアやKVMと組み合わせた時に解像度変更、表示位置が合わないなどのケースがあることを確認しております
- この場合はの対策は、サーバーセットアップ時に使用したモニターをそのまま利用する、コマンドプログラムの更新などを行って再取得ができるような環境構築をされることを推奨します

## 再起動を繰り返すようになってしまった

- 環境にもよりますが、3年以上使用して以下の方が該当している場合、ACアダプターの経年劣化によって起動できなくなっているおそれがあります。この場合は修理対応または弊社直売サイト「ShopATEN」から単体でご購入頂くことが可能です
  - 本体フロントパネルのPower LEDが不定期に点灯、消灯を繰り返す
- ACアダプターの型番は2020年4月現在、「0AD8-0605-24M1」となります
  - 最新のACアダプターの型番を確認したい場合は、製品ページの右側にあるバナーをクリックして専用ページよりお調べいただけます

<https://www.aten.com/jp/ja/products/modelno/CN8000A>



## 既知の問題・HPE製Gen10サーバーで画面が表示されない問題について

- HPE製Gen10サーバーなどで、過去のバージョンによって画面が表示されない問題が確認されています。問題の詳細については、下記URLをご参照ください

<https://www.aten.com/jp/ja/supportcenter/support-info/si180420/>

<https://eservice.aten.com/eServiceCx/Common/FAQ/view.do?id=6601>

- この問題については、既にHPE製サーバーのsystem ROM/iLO Firmwareをv1.40以降へアップグレードし、「VGA Port detect Override」の項目を有効にすることで解決が確認されています
- サーバーのアップグレードが出来ない状況の場合は、弊社別売のGen10サーバーの表示問題に対して専用変換アダプタである「2A-140G」を取り付けることで解決を図ってください

## Windows7でWinClientが起動できない

---

- Windows7のIE8環境はサポート終了となり、このリモート環境ではブラウザからのアクセスでは起動は出来ません。2020年4月時点ではCN8000Aの最新ファームウェアではWindows8以降のIE11が動作対象となります
- Windows7環境でWinClientを使用する場合は、FirefoxやChromeなどのブラウザからアクセスし、Downloadをクリックして「Windowsクライアントアプリケーションのダウンロード」からWinClient.exeを入手し、このアプリを起動してアクセスをしてください

## 一般回線を使用してリモートアクセスする場合の注意

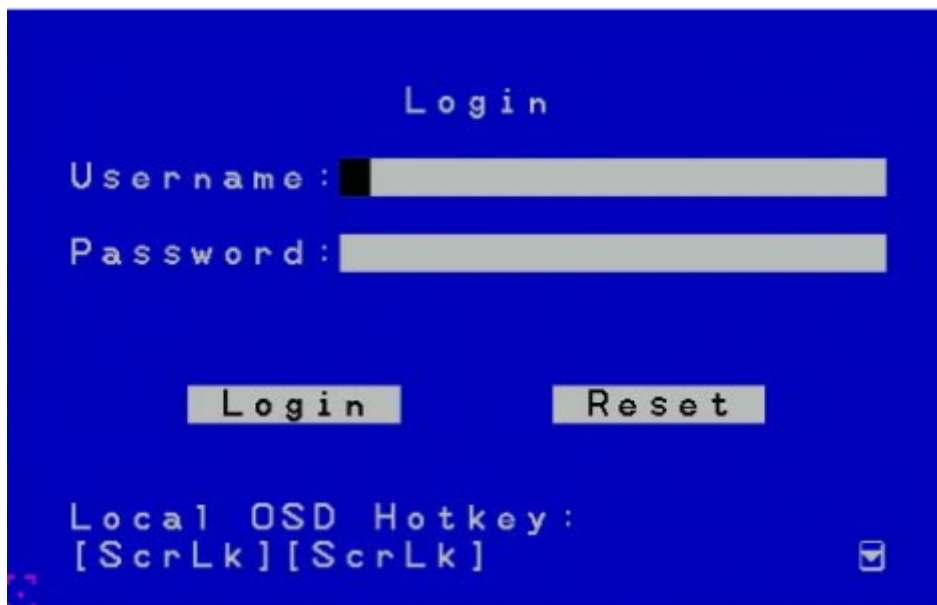
---

- 一般回線を使用してVPNを構築し、KVMへリモートアクセスをする場合、一般回線上で発生するゆらぎやネットワーク障害などによって突発的な映像遅延や接続断が頻発する可能性があります。
- 常時監視を目的とするようなシステムを要件とされる場合は、帯域保証型のネットワーク回線が必須となるため、ご注意ください

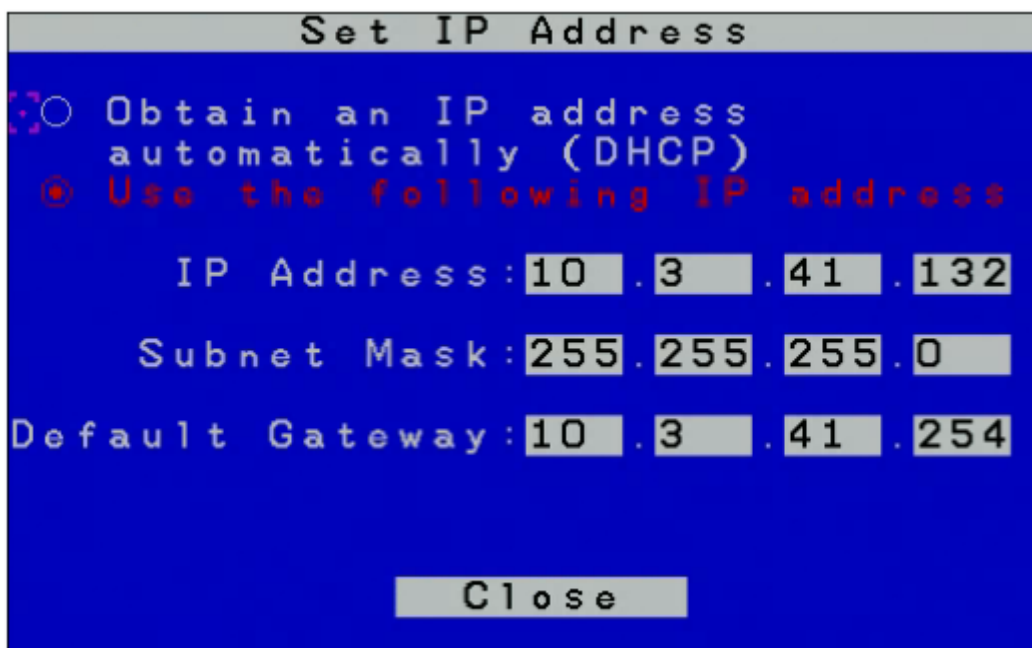
## CN8000AのIPアドレスが分からなくなった

---

- CN8000Aのローカルコンソールから[Scroll Lock]キーを2回押してメニュー画面を呼び出してください

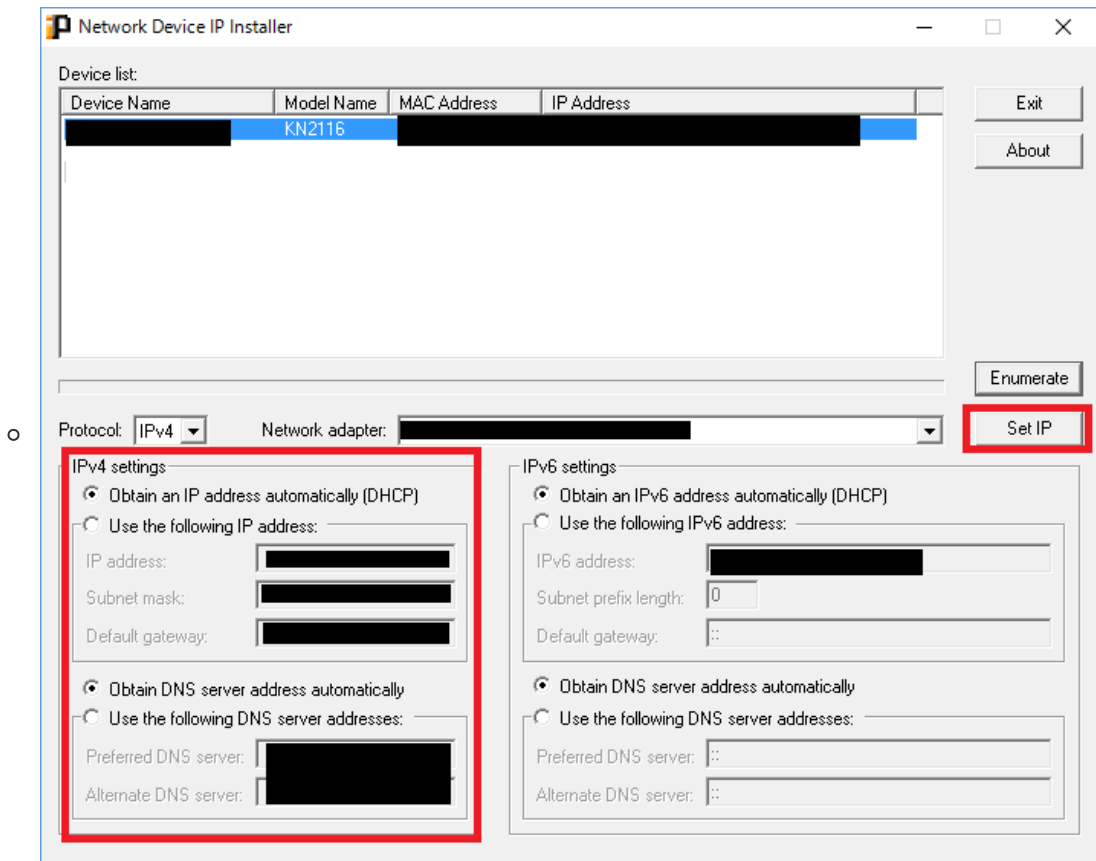


- 初期設定では、以下の通りとなります
  - **Username:** administrator
  - **password:** password
- メニューから「Set IP Address」を選択し、現在CN8000Aで設定されているIPアドレスをご確認ください
  - 以下スクリーンショットはマニュアルに記載されているIPアドレスの入力例となります



- 初期設定では、以下の通りとなります
  - **IPアドレス:** 192.168.0.60
  - **サブネットマスク:** 255.255.255.0
- IPアドレスを確認した後に、PCからの導通確認をします
- CN8000Aとリモート端末をストレート配線のLANケーブルを接続してから、以下の手順で確認を進めてください
- 弊社製、弊社製品専用IPアドレスユーティリティ「IPInstaller」をご利用ください
  - IPInstallerは製品ページの「サポートとダウンロード」から入手できます

- 弊社製KVMOverIP製品と接続しているネットワークセグメントが合致している場合、以下のよう  
に製品がリストに挙がります。製品がリストに挙がっていない場合は、IPInstallerを実行して  
いるPCのネットワーク設定を(IPアドレス/サブネットマスク/ゲートウェイ/DNS/ファイアウォール  
など)ご確認ください



- もし、IPアドレスが設定を変更させたい場合は左下の項目で「Use the following IP address(以  
下のIPアドレスを使用する)」にて任意のアドレスを入力した後、右の「Set IP」ボタンを押すこ  
とでKVM製品のIPアドレスを変更する事が出来ます
- 弊社製品はIPアドレスを変更されると再起動をします。しかし再起動後はIP自動的にリストには  
自動的に掲載されないため、「Set IP」上にある「Enumerate(更新/検索)」をボタンを押してリ  
ストを更新して変更されたかご確認ください

## ローカルとリモートバラバラで操作したい

- CN8000Aは、ローカルコンソールの操作とリモートコンソールは操作は一つの操作権限を取り  
合う、という設計になっています
- 「CN8000AとKVMを組み合わせて使用してきたが、ローカルコンソールとリモートコンソール  
を別々にサーバーにアクセスしたい」という要件が発生した場合は、KN2116VAシリーズなどの  
上位機種のご利用をご検討ください
  - 上位機種KNシリーズは製品型番の「千の位」がリモートユーザーが同時にアクセスできる  
バスの数を意味しています。KNシリーズはCN8000Aと同じで最大で同時に32人のリモ  
ートアクセスに対応しており、各製品によって同時にアクセスできるバス数が以下のように  
異なります
    - KN8132v: ローカルコンソール:1バス、 リモートユーザー:8バス
    - KN4132v: ローカルコンソール:1バス、 リモートユーザー:4バス
    - KN2132v: ローカルコンソール:1バス、 リモートユーザー:2バス
    - KN1132v: ローカルコンソール:1バス、 リモートユーザー:1バス

- CN8000Aを初めとしてKH1508AiやCS1708iなどのエントリーモデルは、ローカル/リモート合計で1バス使用可能です

<https://www.aten.com/jp/ja/products/modelno/KN8132v>

<https://www.aten.com/jp/ja/products/modelno/KH1508Ai>